



# 中高生 政策決定参画プロジェクト

## 政策提案資料

2025.8.28

江藤 志真

億岐 道生

黒岩 春紀

黒坂 藍

鈴木 七奈実

蟬川 結衣

東坂 明憲

中島 知葉

西塚 理乃

長谷川 圭介

林 芽依

松本 琉那

## ===== 提案までの議論の流れ =====

### <参加メンバーの構成>

計 12 人（中学生5人、高校生7人）



### <これまでの活動状況>

|       |                |                              |
|-------|----------------|------------------------------|
| 5月11日 | 第1回（オリエンテーション） | メンバー同士の顔合わせ<br>テーマについての認識合わせ |
| 6～7月  | 第2回            | 既存事業の課題分析等                   |
|       | 第3回（フィールドワーク）  | TIB（Tokyo Innovation Base）訪問 |
|       | 第4～7回          | 政策提案の方向性の検討                  |
| 8月5日  | 第8回（中間報告会）     | 東京都職員からフィードバック               |
| 8月中   | 第9～11回         | 政策提案に向けた資料作成・リハーサル           |

➡ 計11回のミーティングを実施し、政策案を検討

## テーマについて

### ＜今回のテーマ＞

「中高生にビジネスや起業に親しみをもってもらおう～挑戦者を生み出す東京へ～」

### 【最終的な目的】

社会を良くしていくために、挑戦する若者を増やしたい

### 【挑戦する若者を増やすためにはどうすればいいか】

中高生のうちからビジネスや起業に親しみを持ってもらう



ビジネスや起業に親しみを持つことに加えて、以下の力を身に着ける必要がある

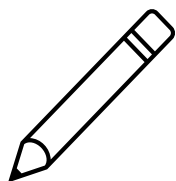
- ・新しいアイデアや革新的な解決策を生み出す能力＝創造力
- ・アイデアや計画を実際に行動に移し、結果を出す能力＝行動力



アントレプレナーシップが必要！

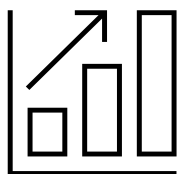
## ===== [ 中高生がアントレプレナーシップを身につける重要性 ] =====

社会の変化に柔軟に対応し、長期課題や新たな課題に立ち向かうのは若い世代  
その中でも“**私たち中高生**”がアントレプレナーシップを身につける重要性は以下のとおり



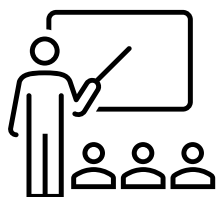
### 01 主体性・問題解決能力の獲得

中高生の方が価値観が固まった大人よりも主体性・問題解決能力を  
獲得しやすい



### 02 人生を豊かにするアドバンテージ

早い時期にアントレプレナーシップを身に着けることで、多角的に物事を見  
られるようになり、今後の人生や社会を豊かにするアドバンテージになる



### 03 次世代リーダー育成

創造力や主体性を持つ次世代のリーダーが育ち、都市の競争力の  
向上や持続的な成長に貢献することができる

## 【現状の中高生の意識①】

### 【アンケートの概要】

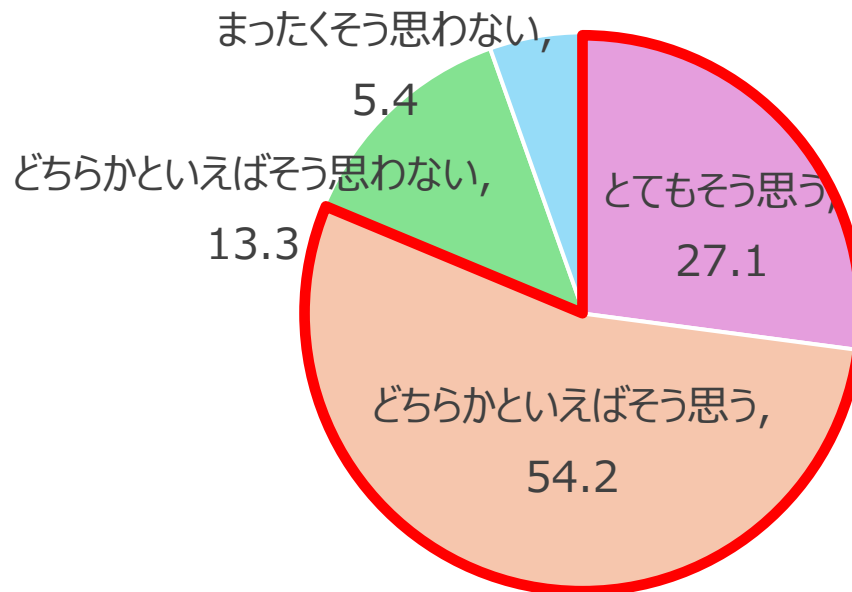
調査手法：スマートフォンリサーチ

調査対象者：東京都在住もしくは在学の13歳から18歳（中学1年生から高校3年生相当）

サンプル数：1,000人

### アントレプレナーシップを身に付けたいか

アントレプレナーシップを身に付けたいと思う人は81%いる

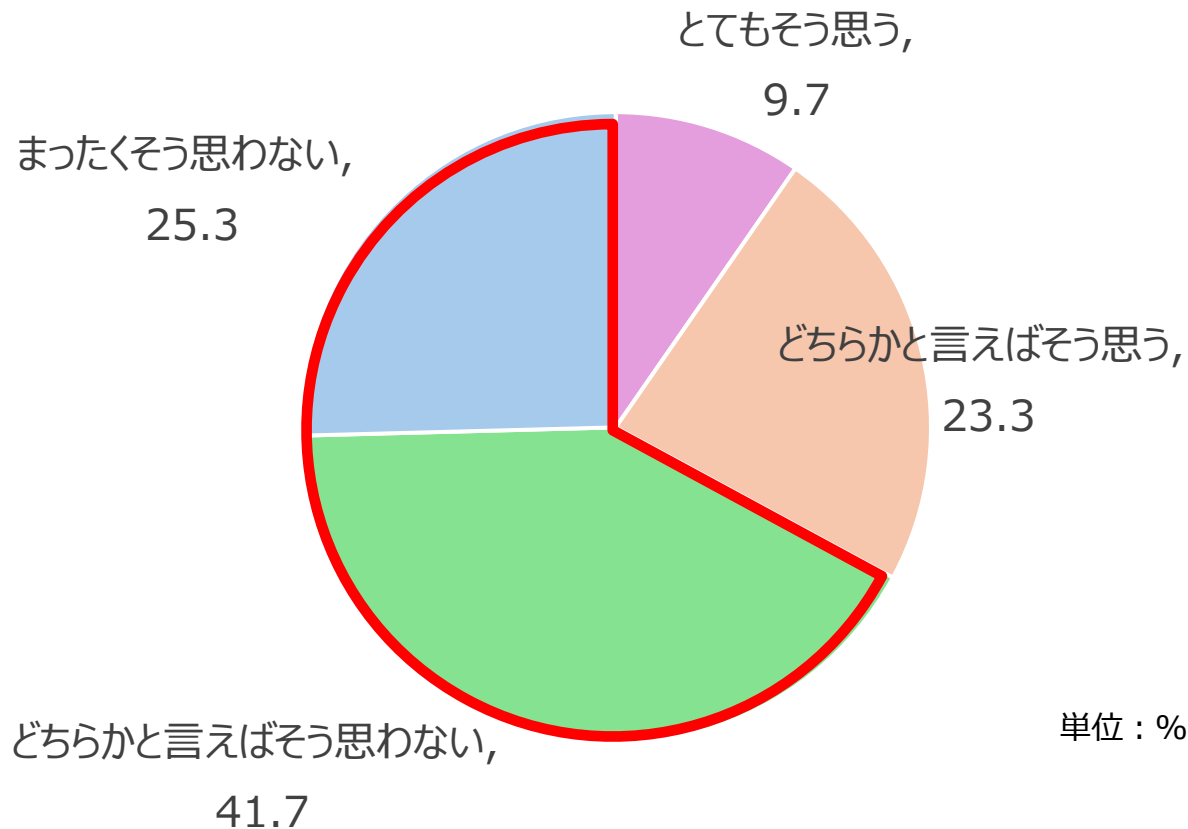


単位：%

## 【現状の中高生の意識②】

### 起業やビジネスを身近に感じているか

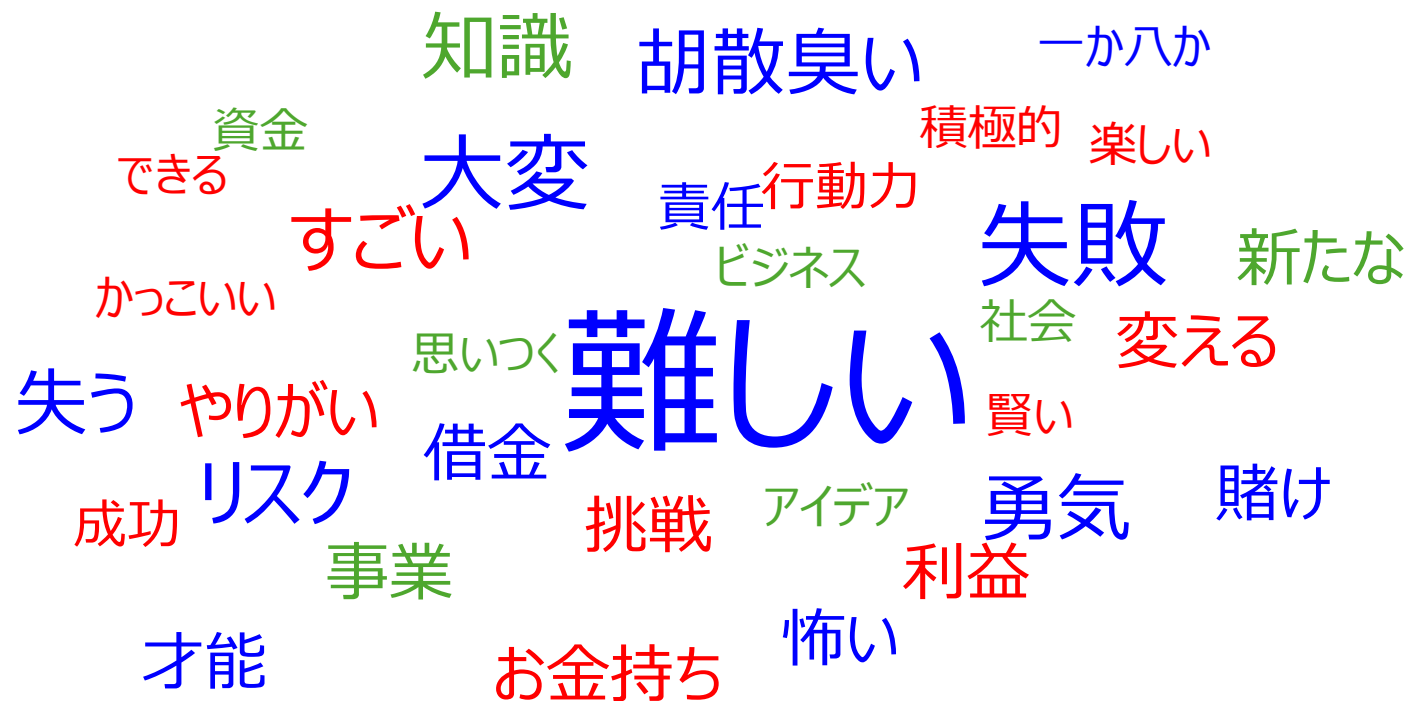
**約7割**の中高生は、起業やビジネスを身近に感じていない



## —— [現状の中高生の意識③] ——

### あなたが考える起業やビジネスのイメージ

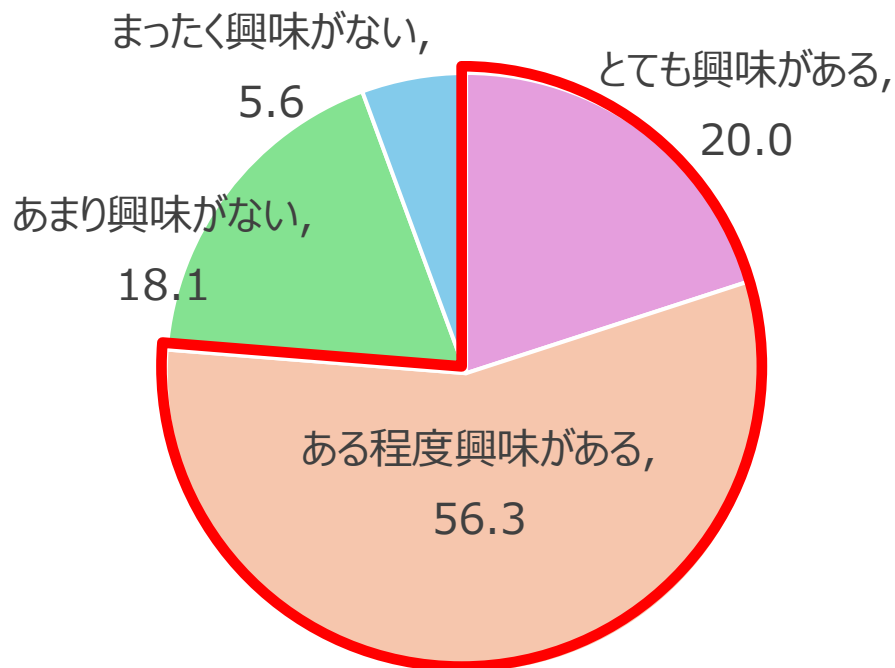
起業やビジネスにネガティブなイメージを持っている中高生が多い



## [現状の中高生の意識④]

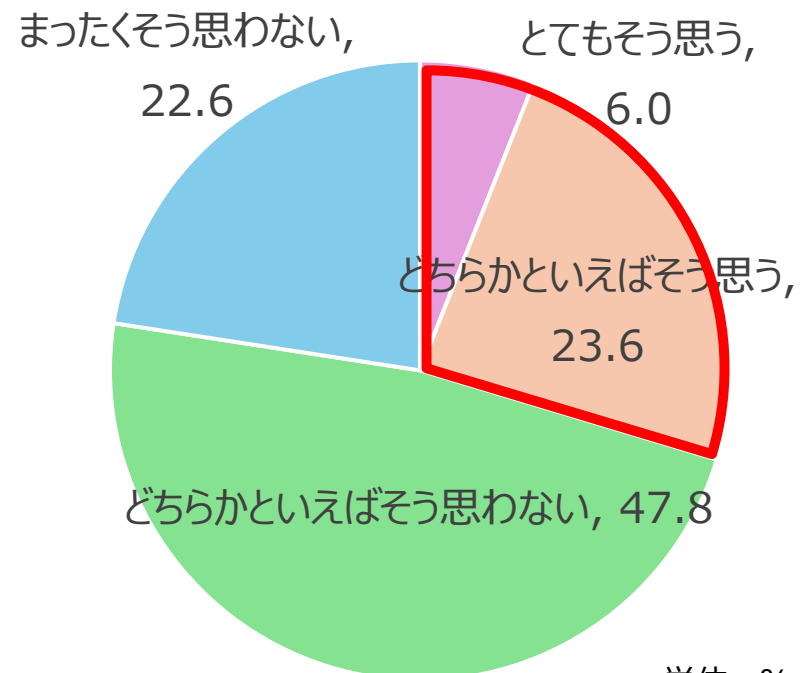
社会課題について興味・関心がある人は約**76%**いる  
しかし、自分が解決できると思う人は約**30%**と少ない

社会課題に興味・関心があるか？



単位：%

自分が社会課題を解決できると思うか

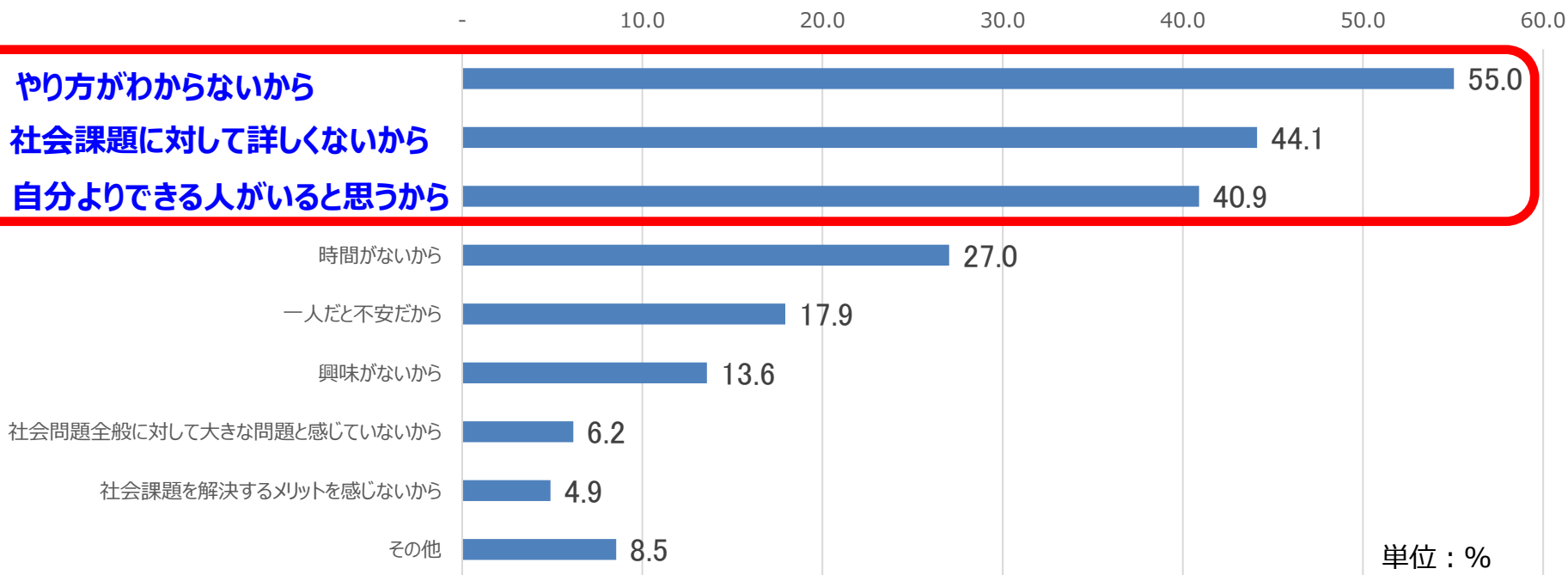


単位：%

## 【現状の中高生の意識⑤】

なぜ自分が社会課題を解決できると思わないのか

社会課題に関する情報を中高生が知る必要性がある



ビジネスや起業に親しみを持ってもらうための土台として、  
中高生のうちから社会課題解決に向けて行動できる環境づくりが必要

# 【東京都の取組に対する中高生のリアルな声】

## ■ TIB JAMでの体験

社会課題を解決する事業案を参加者同士で練り上げるワークショップに参加



- 参加者に大学生が多く、中高生には入りにくく参加しづらい
- 学校の授業や部活がある中高生と開催時間が合っていない



## ■ ITAMAEメンバーとの座談会

ITAMAEメンバーに活動や起業についての経験談を聞き、質問をした。



- 中高生の早い段階でアントレを学ぶことが大事
- ITAMAEのように、自分たちも中高生で企画・運営したい



## ■ 学校でのアントレ教育の実態

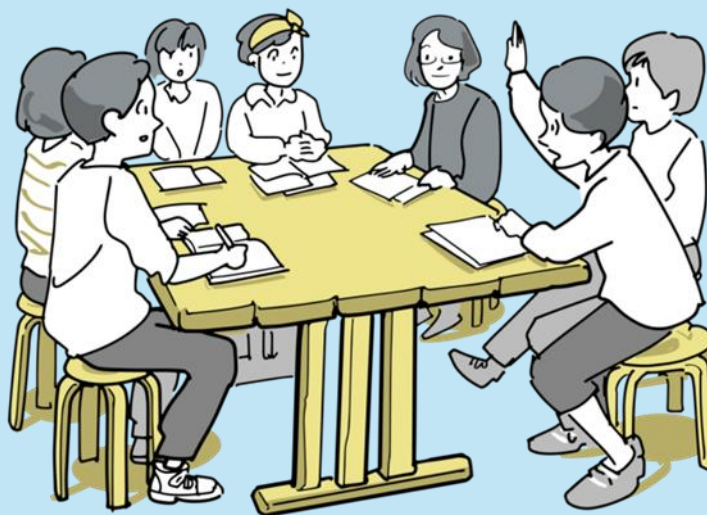
12人のメンバーの中で、学校でアントレ教育を実施しているのが1人だった。

- 先生からの授業だと身構えてしまい自分の将来と結び付けて考えにくい

## ＝＝＝ [政策提案したいこと] ＝＝＝

中高生が  
生み出す！

# 社会と繋がり未来を切り拓く 主体的な中高生になるための アントレ育成計画!!



# 中高生アントレプレナーシップ育成計画

## ポイント

- ・個人の習熟度（ステージ）に応じた、一人ひとりに寄り添ったアプローチを用意
- ・中高生が主体になって運営する、多忙な中高生も勉強や部活動と両立できるプログラム
- ・中高生自身が活動の成果を発信することで、アントレの波を広げていく

## 政策の全体像

### ★中高生が主体となって運営★

#### ステージ0

- ・社会課題に興味がない
- ・興味はあるが自分ごとではない

#### ステージ1

社会課題が自分事になった

#### ステージ2

主体的に課題解決に向けた行動を始める

行動を始めた中高生が興味のない中高生に影響を与え、アントレの波が広がっていく

#### 興味・関心を喚起する段階

##### 【アプローチの方向性】

- ・社会課題に対する危機感を煽り自分事にする

#### 学びを深める段階

##### 【アプローチの方向性】

- ・興味関心を改めて考える
- ・解決するための流れを学ぶ

#### 実践する段階

##### 【アプローチの方向性】

- ・活動の継続・発展をサポート
- ・活動を社会に発信

## 想定される効果

中高生が仲間とともにアイデアを形にしながら、社会と繋がり未来を切り拓く姿勢を育む

# アプローチの具体的内容について

## ステージ 0

- ・知名度があり信用できる人に発信してほしい



有名人による講演会  
と動画発信

## ステージ 1

- ・自分で考えて、社会課題の解決方法を整理したい



ワークシートを活用  
した学び

## ステージ 2

- ・社会課題を解決するための活動の場がほしい
- ・仲間と共にモチベーションを維持しながら活動したい



コミュニティ作り

- ・現状中高生が成果発表する場がないので、  
コミュニティでの活動を成果発表する場が欲しい
- ・多くの中高生に興味をもってもらいたい
- ・起業家等と交流したい



成果発表会の開催  
【－AJI祭－】  
Awaken junior  
innovation